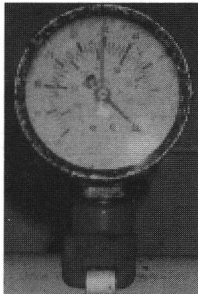


ミルカーの日常点検

搾乳に欠かせないミルカーですが、毎日十分に機能させるためには、日常の管理が大切です。点検機材がなくても、自分の「目・耳・手」でできることも数多くあります。日常の点検、管理が機械を良好に保ちます。

1. 目で確認！

(1) 真空計は正しい値を示しているか



搾乳前に設定真空圧を確認しておき、搾乳中に極端に変動していないかを見ます。

搾乳中、真空圧が大きく変動している場合、レギュレーターの点検、エア漏れのチェック、真空ポンプ能力の確認をしましょう。

(2) レギュレーターは汚れていないか

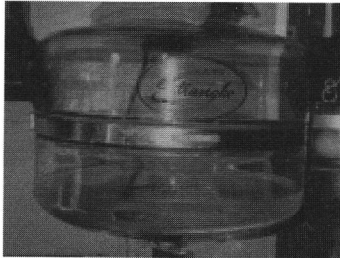


これは、真空圧を適正に調整する重要な部分です。

清掃を怠ると、レギュレーターの性能が十分に発揮できない場合があります。

周辺ほこりを取り除き、内部も定期的に清掃しましょう。

(3) レシーバジャーの汚れはないか、搾乳中の状態はどうか

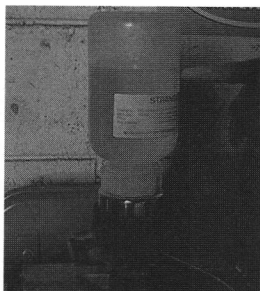


汚れが残っていたり、内側がくもっているなどの場合は、まず洗浄工程を確認します。

また、搾乳中に生乳が流れ込んでくる状態を確認します。

量が一定でない場合は、ミルク配管の勾配が正しいか、配管のたるみはないか、ミルク配管の口径などを確認しましょう。

(4) 真空ポンプのオイル量



オイルが減っているかを
確認し、不足の場合は補
充します。

(5) ブリードホール詰まり



ここが目詰まりしていると生
乳の流れがスムーズにいきま
せん。内側から清掃しましょ
う。

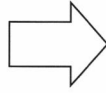
(6) ミルクタップの汚れ



ミルクタップも汚れて
います。定期的に清掃
しましょう。

2. 耳で確認！

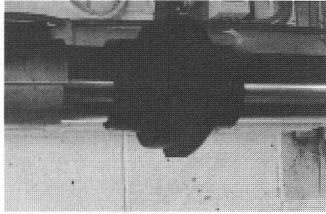
(1) パルセーターの動きはどうか



簡単な点検方法

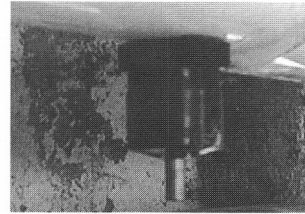
1分間に開閉する回数(=拍動数)を数えて、メーカー基準値より前後3回以内に収まっているか確認しましょう。

(2) 配管のエア漏れはないか



洗浄時、音を聞いてエア漏れがある場合、整備をしましょう。

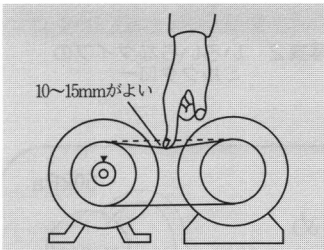
(3) ドレンバルブの音はどうか



音を聞いてエア漏れの有無を確認します。凍結期には特に注意しましょう。

3. 手で確認！

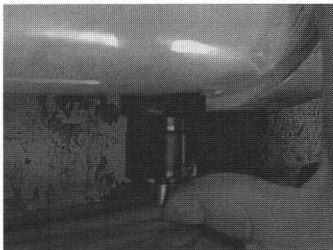
(1) 真空ポンプのベルトの張り具合はどうか



指で押してみて、ベルトがたるみすぎているかを確認します。

たるんでいるようであれば、適正(10~15mm)に戻します。

(2) ドレンバルブは正常に動くか



指で押してみて、動くかどうかを確認します。

真空タンクやパルセーターラインにあるバルブは、搾乳中に吸い込んだゴミやほこり、たまった水分などを排出する、大切な役割を持っています。

定期的な清掃が必要です。

レギュレーターの回復テスト

このテストを定期的に行うことによってシステムの問題点(エア漏れ、ポンプ能力、レギュレーターの不調など)がわかります。

- (手順) ① 1人は真空計を見て、現在の真空値を確認します。もう一人はミルクラインのインレットを1カ所、5秒間開放し空気を吸わせませす。
- ② 合図でインレットを閉じ、真空値が元に戻るまでの時間を計測します。3秒以内であれば正常で、それ以上かかる場合は上記の問題が考えられます。